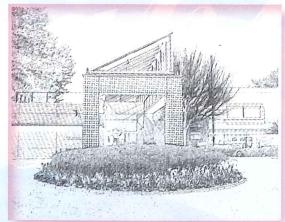


資料館だより ライト



2023.4.1 編集・発行 国立ハンセン病資料館 東京都東村山市青葉町4-1-13 ☎042-396-2909 <https://www.nhdm.jp/>

次号よりリニューアルします

2023年6月、国立ハンセン病資料館は1993年の高松宮記念ハンセン病資料館開館以来、設立30周年を迎えます。それに伴い、季刊誌「資料館だより」をリニューアルし、企画展などのご案内や報告、社会啓発活動など、これまでの内容に加え、30年のあゆみを振り返り、より多くの方に親しみを持っていただけるよう、一層の充実を図りたいと思います。

その準備のため、本誌は「資料館だより ライト」として発行いたしました。

●ご挨拶

皆様方には、常日頃、国立ハンセン病資料館をご活用くださいまして、厚くお礼申し上げます。当資料館では、この度、「資料館だより ライト」を発行することになりました。資料館の活用に当たっての参考にしていただければ幸甚に存じます。皆様方のご意見などを踏まえて、常設展示や企画展の一層の充実を図っていきたいと存じます。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

(館長 内田博文)

企画展 「ハンセン病文学の新生面 『いのちの芽』の詩人たち」

開催中!

2月4日から開催中の企画展「ハンセン病文学の新生面 『いのちの芽』の詩人たち」は、連日多くのお客様にご来館いただいています。

戦後のハンセン病療養所で生まれた新たな文学の姿をテーマとした展示で、70年ぶりに当館で復刊した合同詩集『いのちの芽』は、たちまち増刷となりました。

ご覧になったお客様からは、「病療養所で生み出された詩の豊かさに驚きました」「企画展だけでなく、常設展示室でハンセン病問題について学ぶことも出来てよかった」などの声が届いています。

関連イベントも盛況で、2月11日コンサート「青い鳥のハモニカ」(阿部海太郎氏、トウヤマタケオ氏、当真伊都子氏による演奏と朗読)、2月25日西村峰龍氏講演会、3月12日妻信子氏講演会、3月18日荒川洋治氏講演会、4月1日小泉今日子氏朗読会を開催することができました。いくつかのイベントはライブ配信され、ご来館いただけない遠方の皆さんにも楽しんでいただきました。当館公式Youtubeで公開しているアーカイブ動画もありますので、ぜひご視聴ください。

企画展は5月7日まで開催しています。

(木村哲也)



図書のご紹介



かわばたやすなり
本作を世に出した川端康成による、熱のこもった跋文にも注目です。当館図書室では貴重な初版しか所蔵しておりませんでしたが、一般利用者のみなさまにお気軽にご利用いただけるよう、このたび64刷を入手しました。閲覧室に配架していますので、ぜひお手に取ってご覧ください。

(長谷川秋菜)

『研究紀要』第10号完成

『研究紀要』第10号が発行されました。当館、及び全国のハンセン病療養所社会交流会館や歴史館による研究成果の還元を目的とした冊子で、おかげさまで今回、記念すべき10号目の発行となりました。

つじあきら
辻央の論文「『選ばれた島』の英訳本『MISSION TO OKINAWA』をめぐって」は、
あおき(けいさい)
青木恵哉の前半生や国頭愛楽園（現在の沖縄愛楽園）の開園経緯が記された『選ばれた島』の英訳本『MISSION TO OKINAWA』の研究で明らかになった、刊行の経緯や翻訳者、発刊年について論じています。

よしくにもと
吉國元の論文「『地面の底がぬけたんです』に見るハンセン病療養所における自助具、義肢、補装具の意義」は、当館で2022年3月12日～8月31日に開催された企画展「生活のデザイン」の開催を通じて得た知見の展開と『地面の底がぬけたんです（著者：藤本とし）』を用いて、障害を補うために使用された自助具義肢補装具の意義について論じています。

つるみしうんすけ
「[講演記録] 鶴見俊輔『ハンセン病との出逢いから』」は、2001年7月1日（日）に多磨全生園コミュニティセンターにて、高松宮記念ハンセン病資料館開館8周年記念講演会として開催された講演会の音源記録を書き起こしたもので、演者の鶴見俊輔は、戦後日本を代表する哲学者・評論家であり、ハンセン病問題とも深くかかわってきた人物です。この講演記録は講演日以降、どこにも発表された形跡がなく、今回の研究紀要にて初公開されました。

続けて、この講演記録についての詳細な解説を木村哲也が執筆しています。

「研究紀要」は第1号から今回発行された第10号まで、来館された希望者に配布するほか、当館HPからPDFファイルでダウンロードできます。ぜひご覧ください。

(牛嶋渉)



来館者アンケートをリニューアルしました

この度、お客様に対し見学後に回答いただくアンケートを新しくいたしました。

今回のリニューアルでは、回答方法を選択できるよう、回答用紙と併せ、館内にアンケート回答専用のタブレット4台を設置し、さらにお手持ちのスマートフォンからもお好きな時に回答いただけるようQRコードを準備いたしました。

より多くの方に足を運んでいただけるよう、そして資料館が身近で魅力ある存在へ発展できるよう、皆様からのたくさんの声を頂戴したいと思います。回答のご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

(菅原広恵)